

子どもが子どもらしく笑顔でいられる病院に

医学部附属病院 小児医療センター「こどもの森」

病気やケガで入院すると、大人でも不安になります。子どもが入院すれば、本人はもちろんご家族の心配は想像に難くありません。小児医療センター「こどもの森」では、院内の診療科との密な連携で子どもの病気を総合的に診ることに加え、治療に立ち向かう子どもや家族に多様なスタッフが心理面などもケアします。子どもたちや親に寄り添いながら治療にあたる「こどもの森」の取り組みを紹介します。

【センターの特色】

「こどもの森」は、2008年2月に小児医療センターとして開設されました。小児科、小児外科をはじめとした子どもの病気に関連する診療科だけではなく、阪大病院の内科系・外科系すべての診療科が一体となって、子どもの病気を総合的に診るところに特徴があります。さらに、病棟保育士やチャイルド・ライフ・スペシャリスト*、院内学級教員など多様なスタッフが常駐し、保育、教育、メンタルサポートを行い、子どもたちやご家族に寄り添った療育支援を行っています。

このセンターができるまでは、子どもたちは各診療科で治療を受けていましたが、今では急性期から慢性期まで、病気の子どもの移動するのではなく、医療者がセンターに集まり診療を行います。小児医療に必要な機器等を分散させずにセンターに集結させることができるメリットもあり「総合病院の中の子ども総合病院」と言えます。

*チャイルド・ライフ・スペシャリスト：「治療的遊び」やお話を通して、子どもたちが治療について理解し、ストレスや不安を少なく、安心して乗り越えていけるように、子どもたちや親、時にはその家族に対して、心理社会的なケアを行う専門職。北米で発展・普及し、日本ではまだ30名程度。



【チャイルド・ライフ・スペシャリスト・馬戸史子さん】

子どもたちが受け身になりがちな医療の場でも思いを伝え主役になれるように、まずは「きく」こと、「心に耳をすます」ことを大事にしています。子どもは各々の発達段階・医療上の制限・心理状態により、言葉にできない思いを沢山抱えていて、遊び表現や表情や身振りで一生懸命訴えています。それを丁寧にくみ取り、一人一人に合わせて支えていきたいですね。



子どもたち、ご家族にとって医療体験が辛い思い出になるのではなく、治療を主体的に乗り越えた自分を誇りに思ってもらえることはもちろん、治療を乗り越えていく過程でも子どもが子どもらしくキラキラ輝けるように。そのためのお手伝いをしていきたいです。

【病棟保育士・松寺洋子さん、岩井麻希さん】

週2回の集団保育や、センター内の壁面の飾りつけも行いますが、主に子どもたち一人一人のベッドサイドを訪問して、成長、発達、興味にあわせて「遊び」を提供しています。例えば、絵本は、入院中で外に出られない子にとっては外の世界への窓口になります。絵本を通して外の世界を楽しいと思ってもらえるようにしたいですね。また、お部屋に伺うと、お母さんから「子どもが子どもらしく楽しんでいる姿を見ると嬉しい」といった話をしてくださいます。医療者ではない保育士だからこそ聞けることもあるのかなと思ひ、できる限り耳を傾けています。子どもたちにとって遊びは重要です。医療上の安全面や衛生面など、普通の保育よりも制限の多い環境にあるので、毎日が試行錯誤の連続ですが、私たち自身も子どもたちの笑顔に力をもらっています。子どもたちの楽しい時間を提供できるようにこれからも頑張っていきたいですね。



センターの活動

イベント in 子どもの森

USJからウッディーとウィニーがきてくれた!



小児医療センターロゴ
四葉のクローバーを持った
かわいいキャラクターのロゴマークは、
センターに入院するすべての患者さんに
幸せを届けてくれるように・・・
との思いから生まれました。

クリスマスには
サンタが病室にやってきました



全日空(ANA)スタッフによる航空教室



「劇団四季」の皆さんによる
出張パフォーマンス



大阪市立科学館の学芸員による
サイエンスショー

院内学級

(大阪府立刀根山支援学校 大阪大学医学部附属病院分教室)



院内学級は、入院している小・中学生のための学校です。少人数ならではの利点を生かして、子どもたち1人1人の状況に合わせた授業を行います。退院後、地元校にスムーズに復学できるよう支援していきます。学習面に加えて、子どもたちが辛い治療を乗り越えていけるように、楽しい行事にも取り組んでいます。

分教室教諭の松下浩子先生は「うれしいのは、体の不調や不安からなかなか登校できなかった子が『楽しい。』と言って毎日登校できるようになった時や、退院後職員室に立ち寄り近況報告してくれた時、元気で過ごしている様子を手紙で知らせてくれた時です。いつも子どもたちに励まされています。」と話してくれました。

